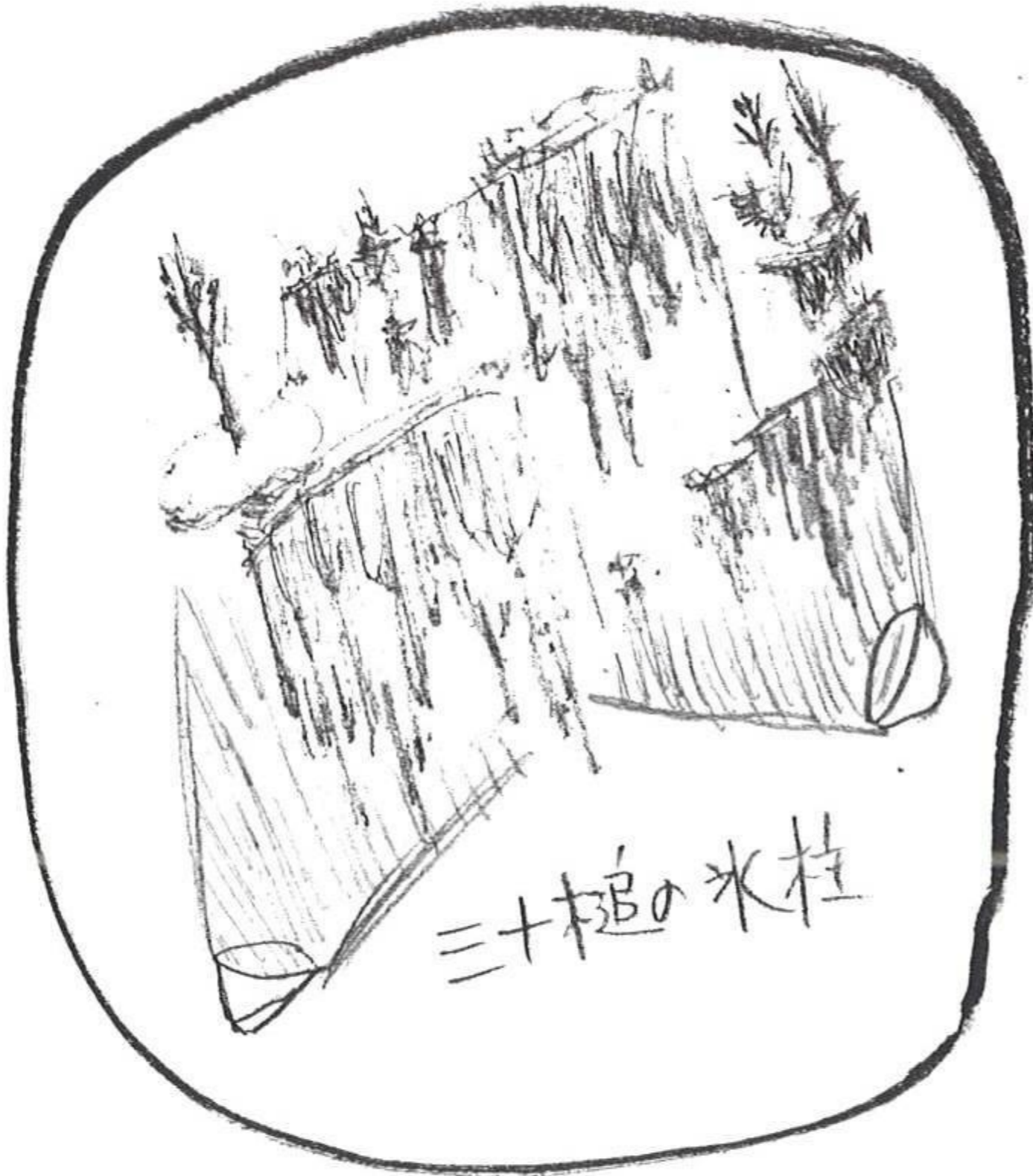


山ごころ

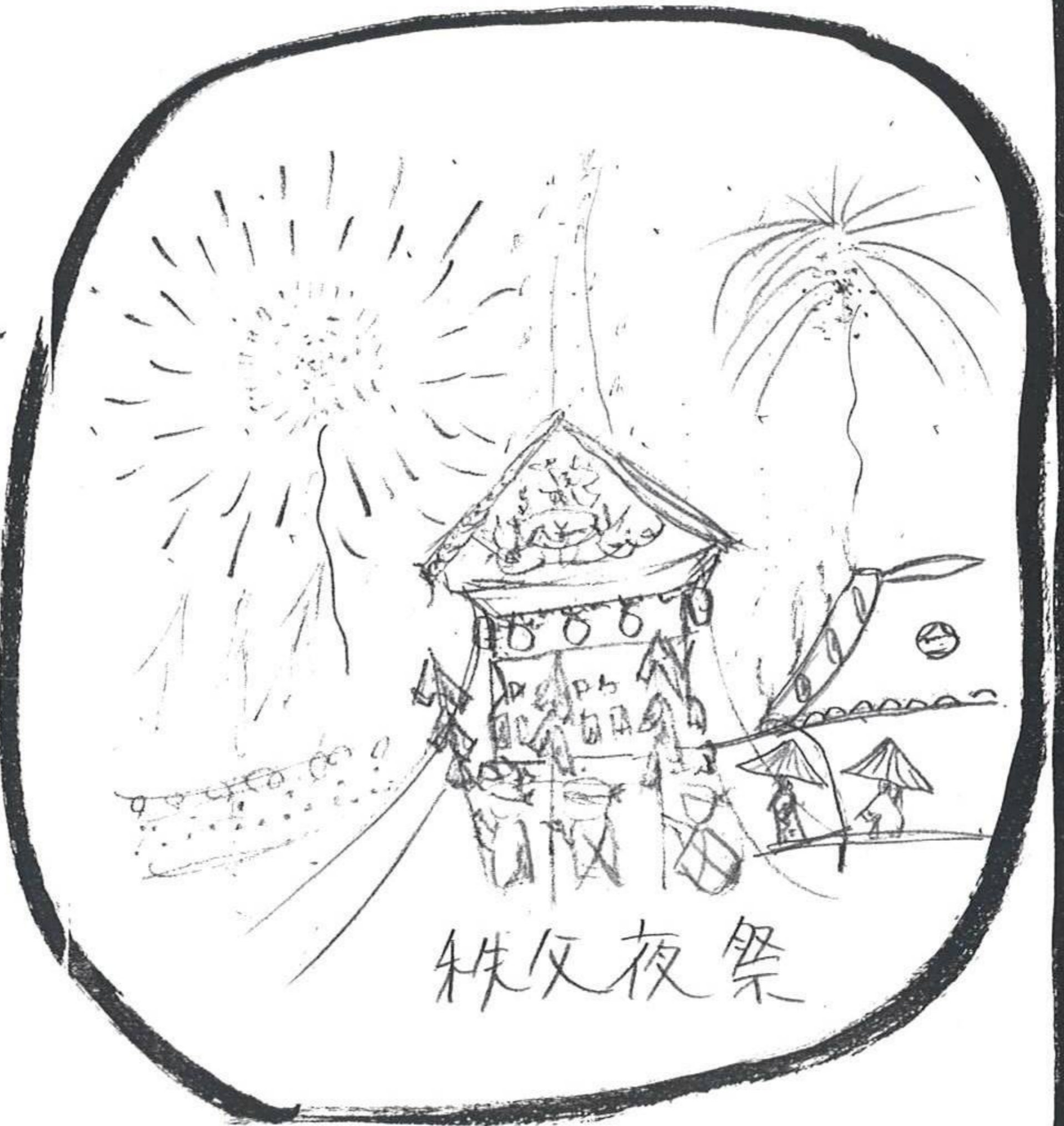
大焼せせらぎ

里ごころ

はたおと秩父



三十槌の水柱



秩父夜祭

秩父市

地域おこし協力隊

№37 (12月号)

人と自然と、過去と未来と

谷口

あったかくなったり、急に冷えたりと、みなさん体調を崩したりしていませんか？ 私はこちらにきてはや2ヶ月、安んず大境を明け回っています！

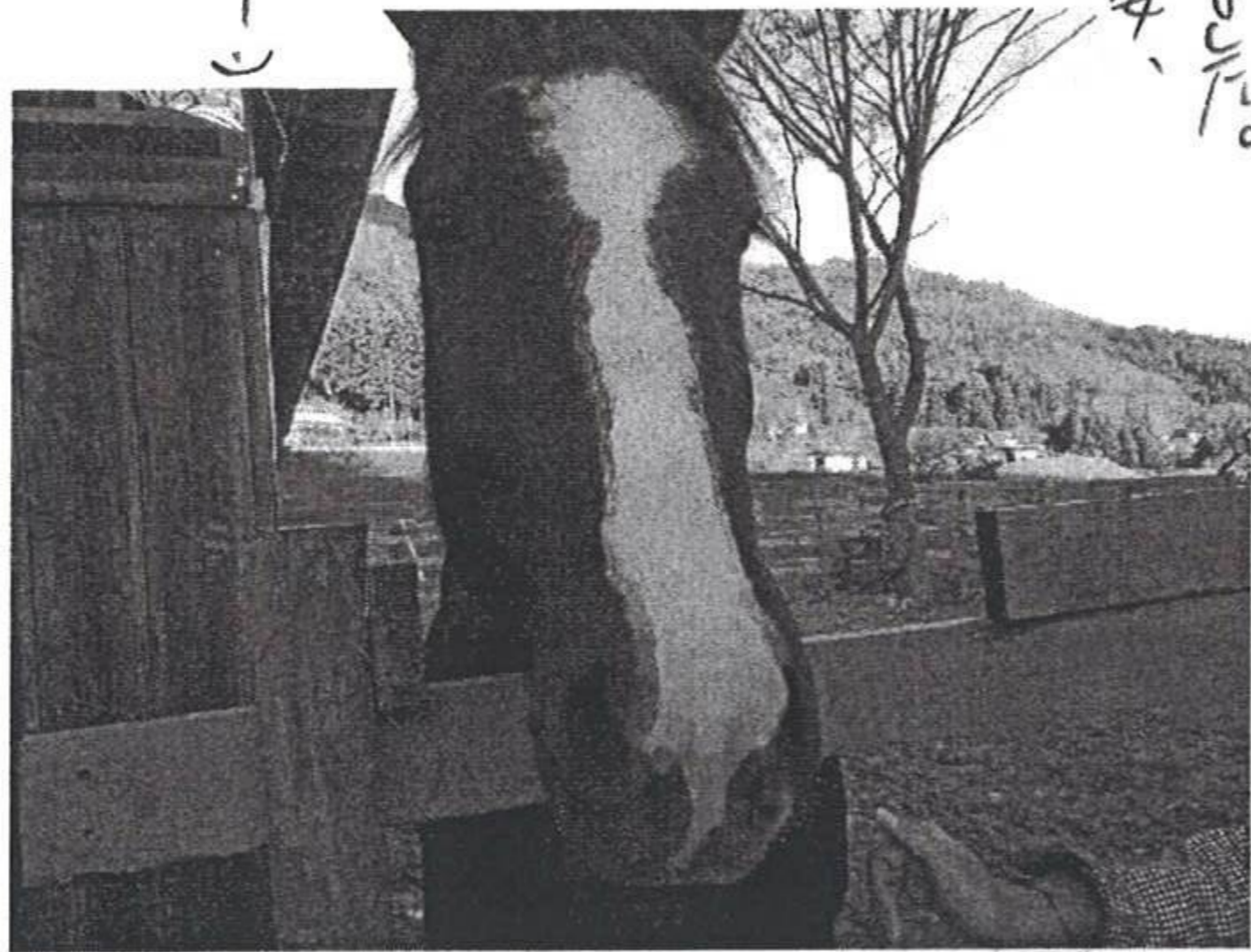
先日、二泊三日の研修で山岩手まで行ってきました。だいが密度の濃い研修で、夜中の12時までかかって、資料をこたたり、企画会議をしたりと、色々と勉強になりました。

二日目の「馬搬」の見学では山を縫う難しさを意義、人馬一緒に働く文化を見させて頂きました。地域の方々がおしめない支援をしている姿、文化を残すことの切実な現実が、とても、心にホッとしてきました。

下の写真、私は馬搬のおうまさん、青森から岩手に来た「寒立馬」で、かくてゆるゆるで、なによりやさしい顔をしていました。たまりません！

一人の手の大きさと馬の顔の大きさ

寒立馬のおおまこといっただらスゴイ！



訂正行錯誤の！

中津川川もレシビ！！

材料：中津川川も・6個くらゐ、とりおねにく・200g、にんにく3かけ、味つけ・しょうゆ・みりん + 水

作り方：①中津川川もを洗ひ、半分は切る。とりおねにくは一口大に切る。にんにくは皮をむき下を切る。②川も・とりにく・にんにくの川もに水を入れた鍋に、しょうゆ・みりん・水を入れて煮る。③中津川川もがかわらなくなったら火止め(20分くらゐ)、つぶす！！この時、残った水気をとると固め、残すところとろとろに〜

★チキンマッシュ完成！



いよいよ夜祭・氷柱の季節がまきました！私、冬の大境はまだこゝありません。のてい、いまからドモトキが来しめてす！！

今秋は暖く、雨も多くて湿度が高かったです。

干し柿、うまくなるとは思いますが、

私も見よう見まねでやりましたが、完成直前までほぼ全滅。奇跡的に残った干し柿のおいしーこと、おいしーこと、悔しー！来年こそは！！

ご意見、ご要望をお寄せ頂いたり、なとありましたら、秩父市役所大境支所 地域振興課 谷口まこと！

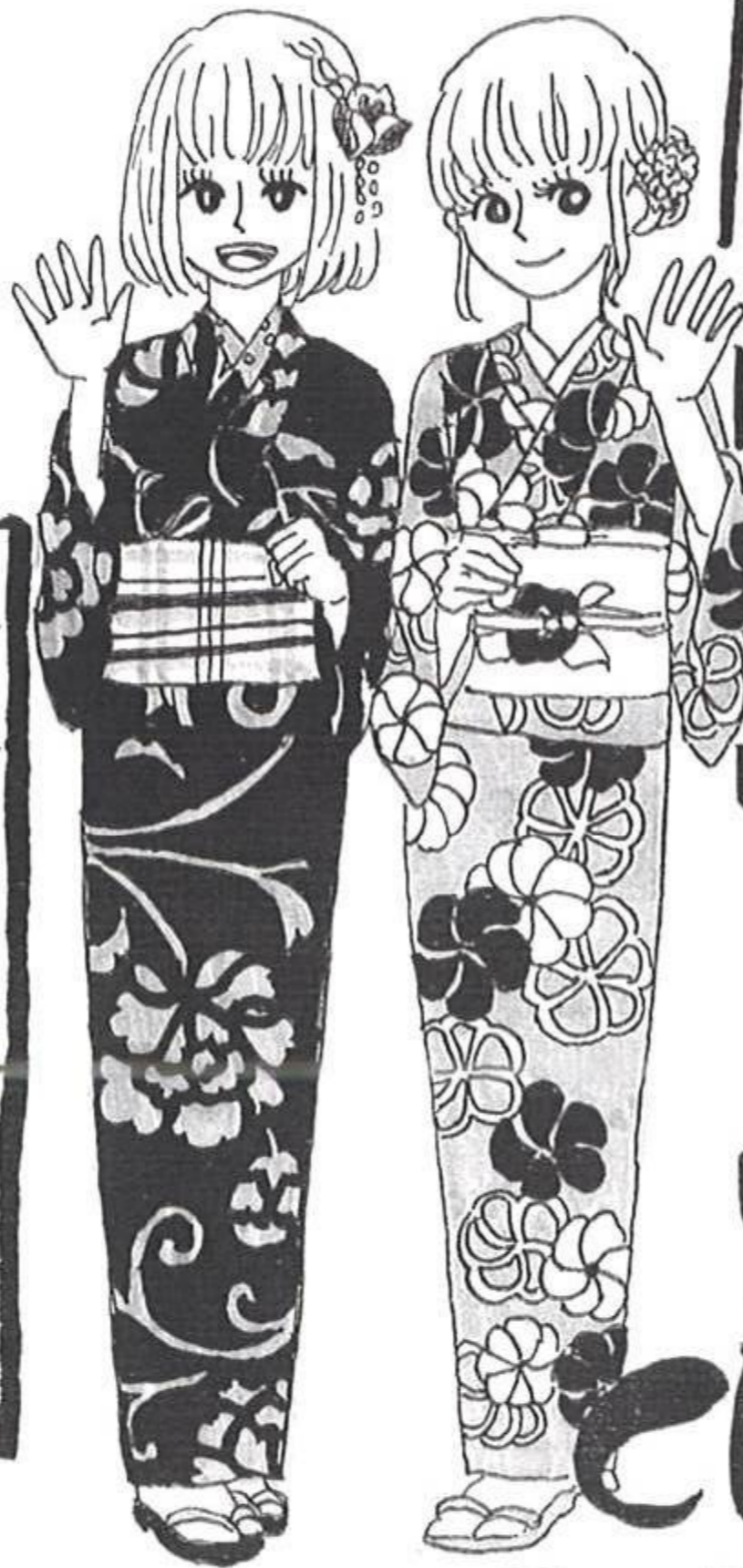
TEL 0494-5510862

あの花コラボ

あはる ver.

つるこ ver.

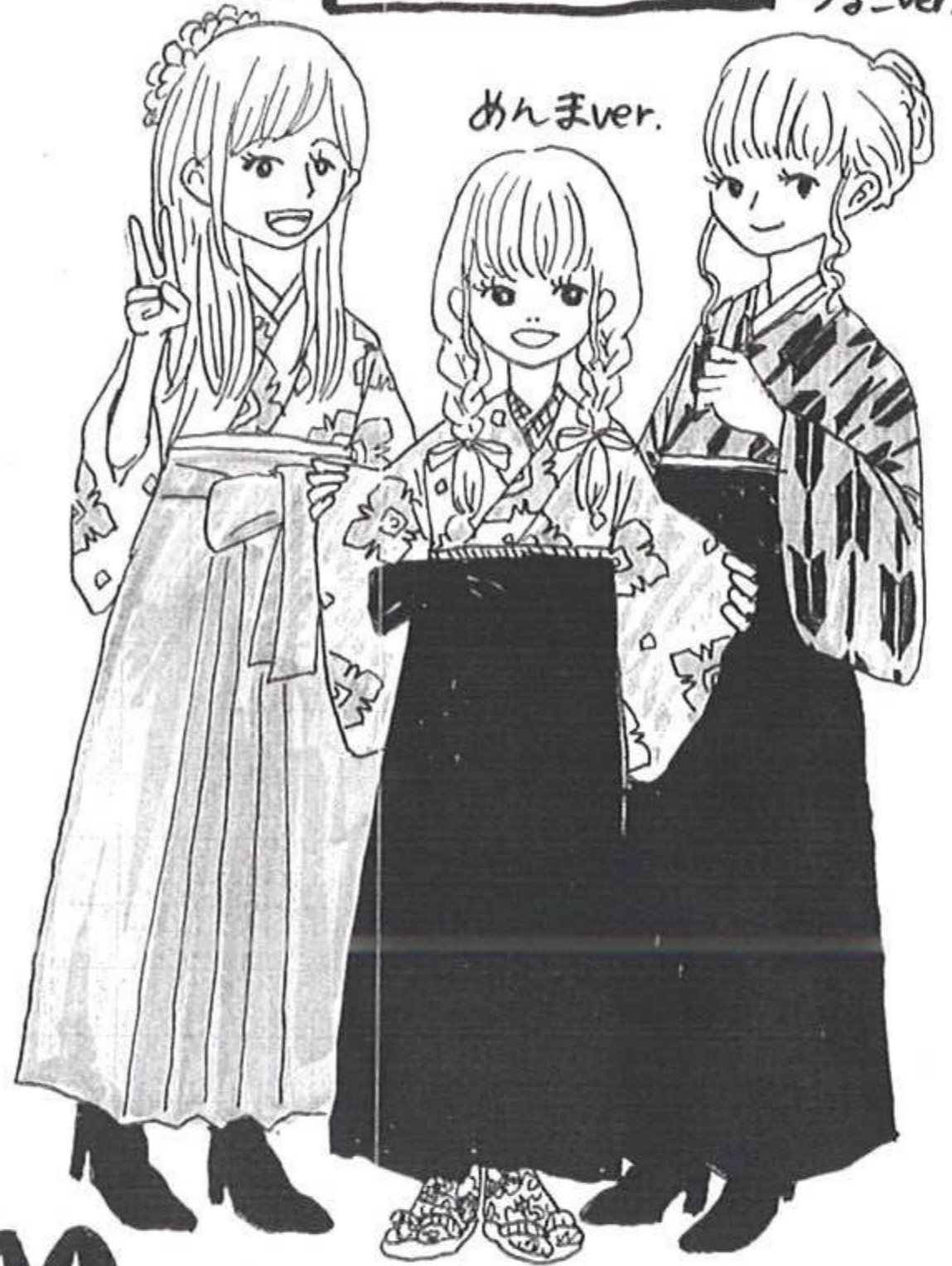
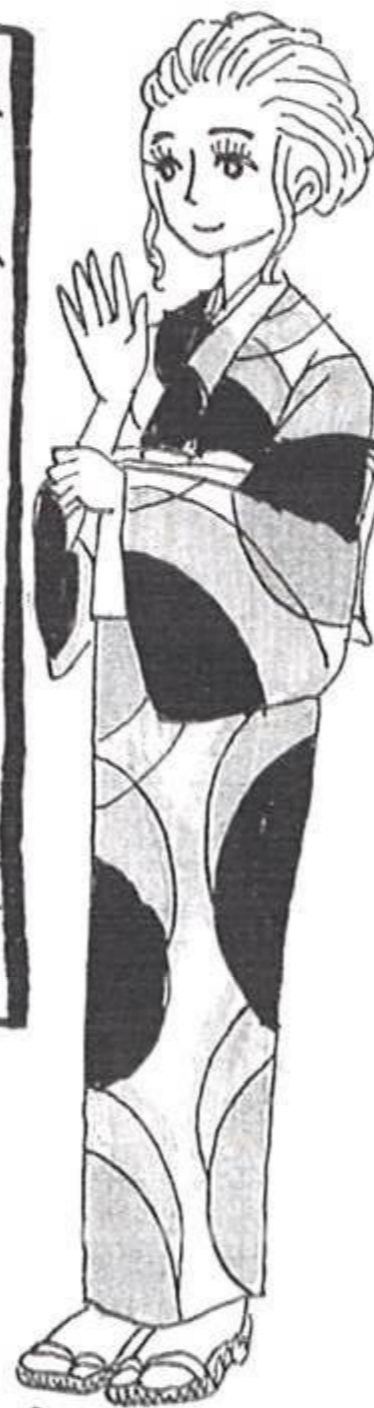
めんま ver.



大蔓牡丹文様 新啓織物

ねじり花文様 新啓織物

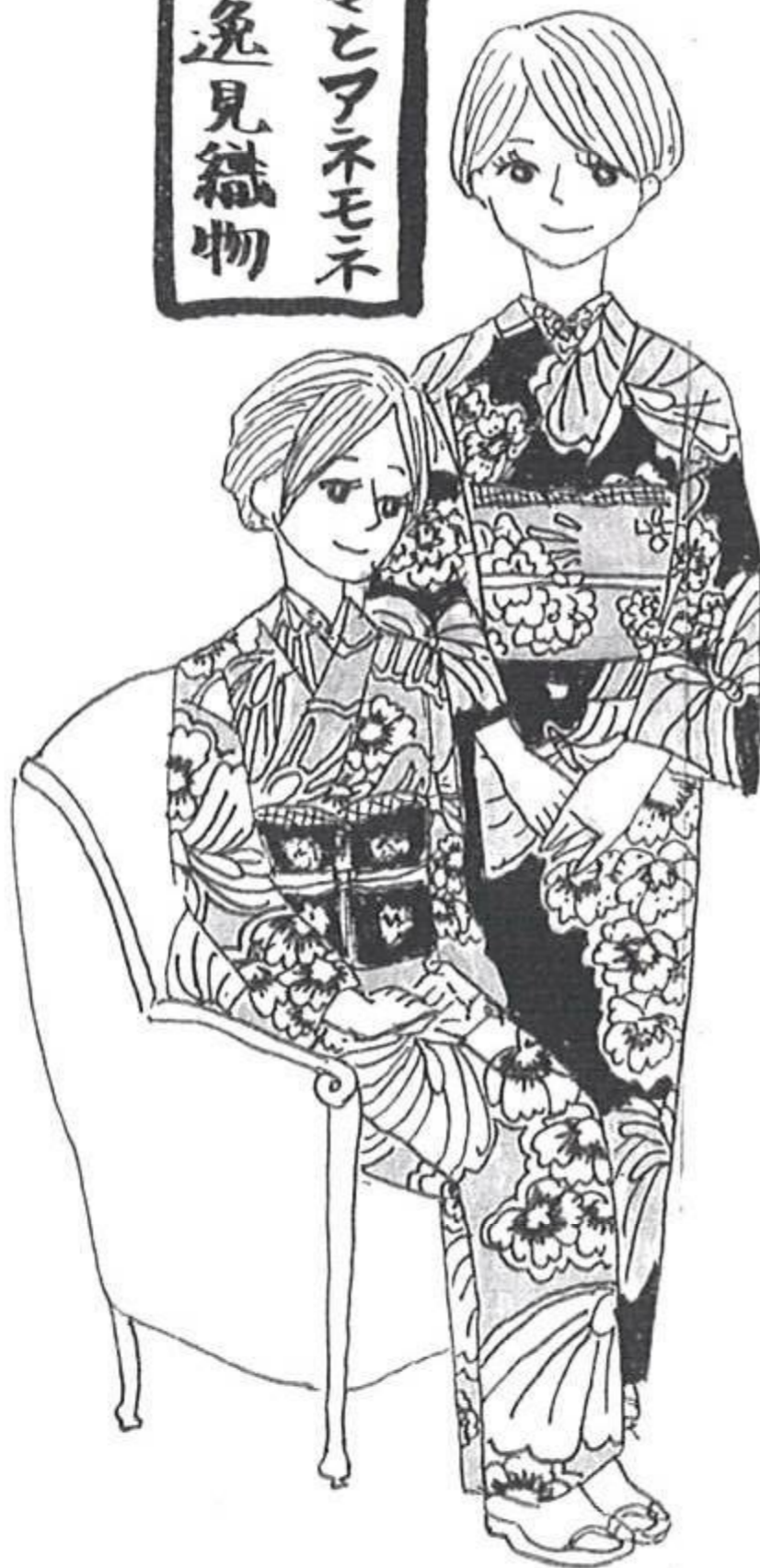
半月すらし文様 新啓織物



11/22(日) Chichibu Meisen Collection 2015 ～秩父銘仙と華～

無事終了しました!

蝶々トアネモネ
逸見織物



ふとん織「リンク」
HARASAKURA
KotSaku-Do-e



銘仙振袖「カトレア」逸見織物

ふとん織「黒」
ちちぶふとん工房



二筋格子十基盛格子
HARASAKURA
KotSaku-Do-e



お問い合わせ
秩父市役所 商工課
地域おこし協力隊
佐俣 菜津子
TEL: 0494-25-5208
MAIL: syoko@city.chichibu.lg.jp

秩父歳時記 12月

秩父はお祭の多い町！その一部をご紹介します！

秩父夜祭

12月2、3日

秩父夜祭は秩父最大のお祭で、秩父の中では1年のしめくくりともいえます。（秩父は夜祭が終わると静かになるので、クリスマススムードが漂わない良い所です。）

武甲山の男の神様と秩父神社の女の神様との年に一度の逢瀬のお祭で、もともとは祭礼直前の十数日は物音を立てないお籠もりをする、自らを淨化することが目的のお祭でした。それが現在のように観衆を呼び呼ぶ形になったのは、絹市が開かれようになり、その振興策として考案されたといわれています。付祭（神事とは別に、町の人連が行う芸能など）として屋台や笠鉾を絹市で賑わう路上に曳き出し、歌舞伎芝居を上演しました。それにより、享保16年（1731年）の夜祭での絹取引量は9894疋（一疋は二反分です。）にのぼり、推定代金を現在に換算すると約4億8千万円にもなつたそうです。

しかし寛政12年（1800年）には幕府の儉約令を受け、藩が屋台興行を禁止した時もありました。その際には神社神職や屋台町行司らが連名で、付祭がなければ絹市が廃れ、年貢上納に差し支えるという内容の許可願いを提出したほどで、それほど秩父にとって大事なお祭であることがうかがえます。

秩父夜祭は武甲山の神様と秩父神社の妙見様の逢瀬と書きましたが、武甲山の神様には本妻がいます。それは番場通りにある諏訪神社のお諏訪様です。よって屋台が諏訪神社の近くを通る際にはお喋りを止めて静かに進むのだそうです。本妻といわれる由縁は、秩父神社をお祀りする以前からお諏訪様を地主神とする神仰からといわれています。



12月4日には農家が一年の生産の感謝と来年の増産を願って秩父神社に蒭を奉納する「蒭系祭」が行われます。